

三浦市立剣崎小学校

研究テーマ：「子どもの豊かさを育む学びを目指して」

～魅力ある授業づくりと「えななみタイム」の実践・交流学习を通して、

主体的に学習に取り組む子を育てる ～

1 実践の目的

昨年度、意欲的に学習に取り組む子を育てるために、国語と算数の基礎基本の定着と普段の授業改善を目的として、研究を進めてきた。その結果、児童が学習に対して興味を持ち、積極的に取り組む姿が見られた。本年度はより意欲的に児童が学習に取り組むことができるように、魅力ある授業作りや、国語と算数の基礎基本の定着を目指すこととした。具体的には「話す力・聞く力の育成と書く力の育成」を授業研究の重点として取り組み、魅力ある授業を行い、主体的に学習に取り組む児童を育てていきたいと考えた。また、朝の学習の時間に「えななみ算数タイム」「えななみ国語タイム」の実践を行い、基礎基本の学力を児童に身に付けさせ、学習に対してより意欲を持たせたいと考えた。交流学习では、日常の授業や校内の異学年交流、校外の交流を通して児童が学びの達成感や自信を持ち、自らの思考を広げ、学習内容を積極的に伝え合う児童の姿を目指し実践した。

2 実践の内容

(1) 校内研究の組織・取り組み

研究推進委員会を中心に、全職員で研究授業、研究協議会を行った。全職員が公開授業を行い、授業前には模擬授業を行い、授業改善を目指した。職員の数も少ないため、できる限り全職員で模擬授業・研究授業に関わり、全員で研究に取り組む機会を設けた。

(2) 校内研究の具体的取り組み

本年度は「魅力ある授業作り」と「えななみ算数タイム」「えななみ国語タイム」を通して、主体的に学習に取り組む子を育てることを目指して研究を進めた。

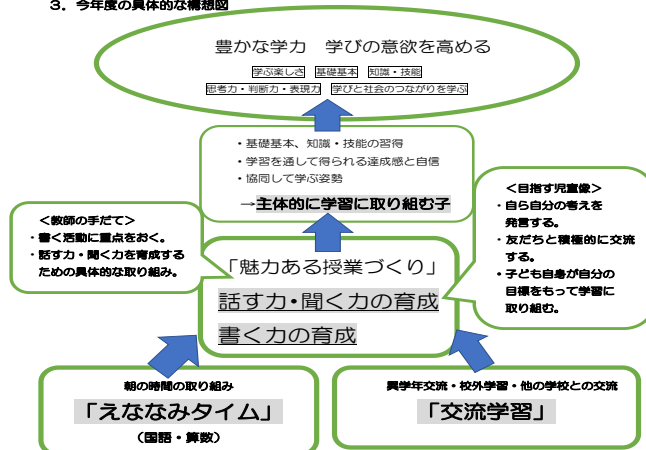
「魅力ある授業作り」とは「話す力・聞く力の育成と書く力の育成」を授業作りの重点として指導案作り、模擬授業、研究協議会を行った。

「えななみ算数タイム」は毎週火曜日の朝の時間に全校で計算プリントやタングラムなどの算数的活動に取り組んだ。内容は児童の実態に合わせ、担任が算数プリントなどを用意し、基礎力の向上を目指した。タングラムなどの算数的活動についても各クラスの児童の実態に合わせ、担任が内容を考えて行った。具体的に取り組んだことを研究全体会で共有し内容の充実に努めた。

「えななみ国語タイム」は毎週木曜日の朝の時間に全校で国語の読む力・聞く力・書く力をのばすために、児童の実態に合わせ、担任が内容を考えて行った。「えななみ算数タイム」「えななみ国語タイム」の取り組みは紙ファイルで保存し、取り組みの成果を児童がふりかえることができるようにした。

交流学习は、校内交流と南下浦小学校との交流を中心に行った。年度当初に、各学年が交流の計画を立て、児童の学習の成果の発表などを行った。具体的には異学年の合同授業を行ったり、実際に学校訪問や海での交流などを行ったりした。また、学校同士の交流では、タブレットを活用し、動画やオンラインを利用してお互いの学校の様子をいつでも見られるように工夫した。

3. 今年度の具体的な構想図



3 実践の成果

(1) 校内研究の組織・取り組み

全職員で、計画的に模擬授業、研究授業、研究協議会を進めることができた。全職員が公開授業に取り組むことで職員同士の学ぶ機会が増え、日々の授業改善につながった。特に模擬授業では、職員同士の活発な議論が行われ、授業者だけではなく、職員全員で授業作りに取り組むことができた。

(2) 校内研究の具体的な取り組み

授業研究では「話す力・聞く力の育成と書く力の育成」を目指し、授業の中で様々な工夫をすることで児童の学習意欲が高まった。「話す力・聞く力」の具体的な工夫としては、電子黒板やタブレットの活用、具体物の提示、既習事項の確認など、児童の実態に合わせた工夫が見られた。授業における具体的な目的意識を持たせることで、積極的に話し、聞こうとする姿勢が見られることがわかった。また、ペアトークやグループでの活動を取り入れることにより、児童が安心して話す雰囲気ができ、主体的に話す児童の姿が見られた。「書く力」についてはふりかえりの活用、発表原稿作り、ワークシートの工夫など様々な取り組みを行った。特に高学年では、ふりかえりを書くことにより、次の授業への児童の意欲につながり、授業者が児童の内容理解や評価にいかすことができるということが分かった。ワークシートや発表原稿を書く取り組みでは、書く機会を多く作り、どのようなことを書くと良いのか具体的に例や挿絵などを活用することが効果的だった。

「えななみ算数タイム」「えななみ国語タイム」では、担任が児童の実態に合わせ、プリント学習や読書などを毎週行い、基礎基本の定着に努めた。研究全体会で各クラスの取り組みを紹介し合い、効果のある取り組みについては、職員同士が共有し学習内容の充実にも努めた。

交流学习では、各学年様々な教科の学習成果を異学年交流や他校との交流で発表した。具体的には海の生き物観察や学校紹介、

各学年の総合学習での成果や運動会の表現の発表など、交流計画をあらかじめ具体的に決めることによって、活発な実践を行うことができた。また、児童にとって他校の児童との交流はとても魅力的で、学習に対してより積極的に取り組む姿が見られた。

4 今後の展開

(1) 校内研究の組織・取り組み

本年度同様、全職員が公開授業を行うことを継続する。研究授業を行うにあたり、模擬授業を行い授業力向上に努める。来年度も基礎基本の定着と日々の授業改善により主体的に学習に取り組む子を育てることを目指し研究を進めていくが、具体的な内容については次年度検討していく。

(2) 本年度の課題と今後の研究の方向性

授業研究については「話す力・聞く力の育成」と「書く力の育成」に重点を置いて研究を進め、「話す力・聞く力の育成」では、児童が安心して話すことができる場の設定とワークシート等の工夫が大切であること。また、ペアトーク、グループ活動によって話す・聞く態度が養われることが分かった。「書く力の育成」では、書く活動を意図的に多く取り入れることと、書く内容の精選、例示などが大切であることが分かった。今後もこの3つの力を児童の実態に合わせて育てる取り組みを継続していきたいと考える。来年度も基礎・基本の定着と日々の授業改善により意欲的に学習に取り組む子を育てることを目指し研究を進めていくが、朝学習を全校一斉の内容ではなく、各学年の児童の実態に合わせたものにして、より充実したものにしていきたい。また、自分の考えをうまく伝えることが苦手な児童も多いので、来年度は積極的に自分の考えをもち、伝えたいと思う気持ちを育てていきたい。